全大阪市を蔽へる
勞資對抗の思想

6.20

今度の藤永田で愈惡化し
資本家の團結之を助長す
ち調停を斷念した

鈴木文治氏談

大阪藤永田の勞働爭議の渦中を脱して今日十二時四十八分品川驛に着いた鈴木友愛會長は直に本部に引揚げ關東支部と鑛山勞働總同盟に通告を發し明晩友愛會本部で此爭議に對する聲援政策に就き具體的協議を行ふ手配を爲した氏は語る『大阪は新任の藤沼警察部長も

着任し て居たので自分は武藤氏と三人で諸方面から解決を計つた、所が會社側は持久戰に出て職工の疲勞するのを待つやうな態度に出て結局未解決中に此隣阪工業會百四五十名が會合を開い鬪が勃發したのである、而して大阪では此藤永田の紛擾が導火線と社等も不安の狀態に包まるゝに至つた、大阪の

資本家 は去る十七日大て合同を決議した、そこで時に止まつて居た勞働組合は翌日天王寺に勞働者大會を催し對抗策を協議し横斷組合其他を決議して對立を計つた、斯くして藤永田の問題から今や全く大阪には勞働、資本兩階級の

對抗的 思想が漲つて居る、之を聞き傳へて神戸でも昨日湊川の勸業館に勞働者大會を開いて聲援する事を決議し既に運動費金二千圓をも集め斯の如き現狀は一部工場主の不誠意の態度から釀 は あ るが警察が先の大阪電工の時と正反對に壓迫を加へたのも有力な原因の一つである』

勞働團隊と彌次馬二千
警官に解散を命ぜられ
格鬪を演じ双方四十餘名の負傷者を出

6.20

（十九日東京發電）

十八日午後七時藤永田造船所敷津分工場及第三工場其他の職工が汽車會社の同情者と賜米を船津橋に受取に行つた際他の勞働團体初め彌次馬約二千名勞働革命歌を高唱し氣勢を擧げ遂に隊伍を組み西長堀通りに差掛つた際に新町署警官隊六十餘名に解散を命ぜられたが命令を聽かず形勢險惡となり遂に大格鬪となり双方四十餘名の負傷者を出し友愛會員廿餘名拘引檢束された

短銃での爭を
巡査が悠々と見物
其上被害者の罷業職工を引致した不法に――
藤永田の職工憤る

6.20

十九日午前七時藤永田敷津分工場に出勤すべく職工を保護警戒中の泉尾警察署巡査は會社側職工前田某なるものと罷業職工の某と

喧嘩口論 中間巡査は嚴正中立なりとて取鎭めざるため罷業職工は前田某の持ち居るピストルの爲めに足部を打たれて負傷したるが前記中立を標榜したる泉尾署の巡査は加害者を引致せずして

罷工側の 被害者を引致せるより大いに激昂したる罷業職工は其本部なる朝日倶樂部に集合して右對策を協議中にて此問題には法律的制裁を加へんと敦圍き居れり（大阪電話）

警官と職工と入亂れて
夜中路上の大格鬪
藤永田職工千名の重役邸襲撃
双方負傷者を出す事數十名

6.20

藤永田罷工職工中の千名は、十八日午後五時汽車會社の職工から贈られた白米を受取る爲め一團となつて泥濘の道に大八車を押して會旗を押立て、船津橋畔に至り、米約二十俵を受取り、勞働歌を唱へて歸る途中、豫定の路を變更して藤永田造船所重役前野芳造氏の

▽**經營** せる西長堀北の廻漕店前野組の前に至り、口々に罵詈を放ちて四ツ橋方面に去つた、急報に依り驅け付けた新町署では署長大内山氏は私服廿名正服巡査七十五名を前野氏前一電車線路に配置し警戒したが、一旦立去りたる職工團は再び前野氏方前に殺到し投石し、警官と

▽**格鬪** を始め職工團は棍棒仕込杖金棒の類を揮つて警官隊と大格鬪を演出した、折柄應援に驅付けた警官隊約三百名の爲に追はれ、白米の車を殘して、八時四十分頃引揚たが警察側の負傷者は十七名に達し、職工側にも負傷者卅餘名を出し檢束者は廿五名に達した（大阪發）

住友電線遂に休む
（會社側斷然職工の要求を跳付く）

爭議中の住友電線製造所職工は十八日午後二時半中政之助以下六名委員を擧げ、最後の手段として住友總本店に最高幹部を訪問し、山下所長住友を代表して會見したが、午後五時遂に要求は拒絶され、同時に會社側は廿日から三日間の休業を宣し、此旨各職工に通知した山下理事に語る「新要求書の宛名は住友合資會社になつて居るが電線は株式會社の法人組織になつて個人經營の住友合資の受る性質のものでないから跳付けた次第で昨今の同職工の態度は甚だ平穩を缺き第一要求條件中の要目となつた團體交渉でさへ何等意義がない左樣な曖昧なものを受付けるさへ迷惑な話である勿論日給卅錢増俸職手當等一切の問題は今後とて一切會社の態度は飽迄不變で彼等が反省する迄或は休業を持續するかも知れない」云々（大阪電話）